

## 雷に注意

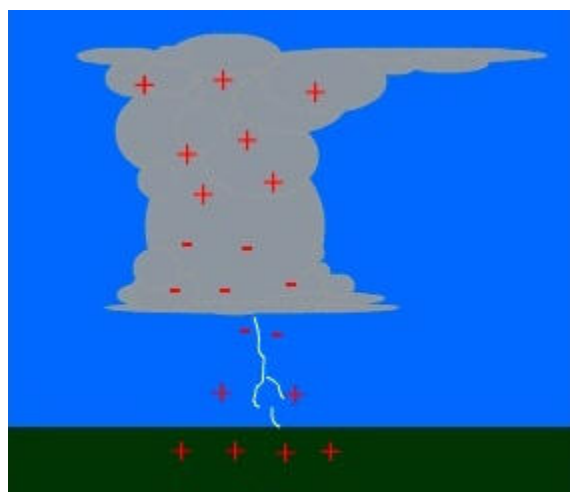
前回は「クマに注意」でしたが、今回は「雷に注意」です。

現在の「東京アルコウ会」は、日帰りの低山中心ですから、朝の天候次第で中止ということもよくあります。このため、雷にはあまり心配することもないのかもしれませんが。

これまでに、「縦走登山」や「夏合宿」などで、雨降りの中「雷」に合うことが何回もありました。

特に、3,000m級の山の稜線で雷に合うと、正直「寿命が縮まる」気がします。

以前に読んだ楨有恒のアルプス山行紀行でしたか、3000m級の山で、「雷雲の接近により、背中のピッケルが唸った」とあったのを記憶していますが、私はそんな経験はありません。

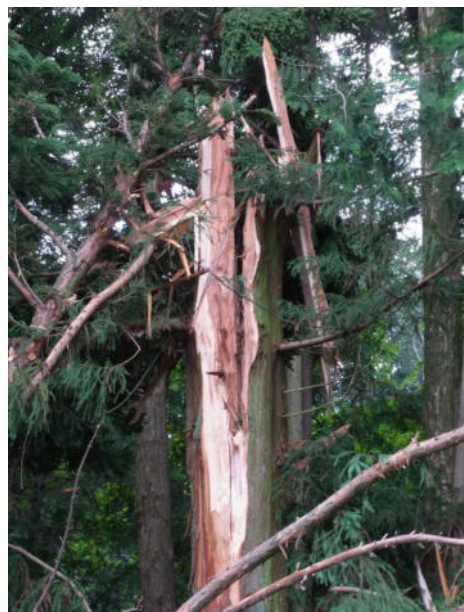


ウィキペディアより

雲の中の小さな氷滴が摩擦によって、静電気が発生します。

もともとは、そんな小さな電気なのです。それが大量に溜まって、耐えきれなくなって地上に落ちる、現象ですね。

その際に、地上（大地というべきかな）の電荷と連絡を取り合っ、落ちる場所を選定します。



我々が、雷に遭遇したら、どうすべきなのでしょうか。まずは、物陰に身を寄せて雷の標的になるのを避けるしかありません。

この場合も、鬼のような雷様が、標的を目で探しているわけではありません。雷は、全く物理的な自然現象なので、人間の思惑などは通じないです。

一番落ちやすい場所を、電氣的に探しているのです。

よく、「樹木の下」は安全そうで、皆さんが逃げ込むのですが、雷に対してはこれが意外に危険なのです。

雷は、流れやすいところを通ろうとしますから、樹木の水分（30%程度）よりも人間の体（水分 80%）の方が、雷は好んで流れようとしています。

むしろ、高い木は雷の「呼び水」になることもあります。

もちろん、建物の中や、外にあって自動車の中は安全です。

2020年9月19日